

医情報学実習

(Practical course in Medical Informatics)

【責任者/担当者】

〔情報学〕藤原 康宏 教授

【目的】

情報化に対応できる医師として必要な情報に関する基礎的なスキルを習得する。信頼性のある情報の検索、データベースの作成・操作、論理的なプレゼンテーション資料作成、数値データの処理を通して、医師に求められる情報技術全般に対する基本的な技能や態度を身につける。

【科目キーワード】

「情報学(Informatics)」「インターネット(Internet)」「情報検索(Information Retrieval)」「データベース(Database)」「データ処理(Data Processing)」「プレゼンテーション(Desktop Presentation)」「情報リテラシー(Information Literacy)」

【到達目標(アウトカム)】

- インターネットを利用して、必要な情報を適切に収集することができる。
- プレゼンテーションソフトを用いて、論理的なスライドの作成ができる。
- 表計算ソフトを用いて、基本統計量の計算、目的に合わせたグラフの作成ができる。
- データベースのコマンドを用いて、必要なデータの読み書きができる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

・患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している。

【概要ならびに履修方法】

実習形式で行う。毎回の授業で個人課題を課す。一部の課題は、実技試験形式で行う。

【準備学修ならびにそれに要する時間】

連続2時間の実習に対して、前日までに該当する部分の教科書に1時間程度目を通すこと。実習開始前までに、前回の実習内容を復習すること。1、2時間必要である。

【成績の評価方法・基準】

- ・授業中に課す課題で評価し、定期試験は行わない。実習課題の配点は、課題によって異なる。事前に予告して実施する実技試験形式の課題は、配点を高く設定する。
- ・全出席、全課題の提出を前提として評価を行う。欠席や未提出の課題が1回でもある場合は、不合格となる場合がある。

- ・欠席する(した)場合でも、教員に報告し、正当な理由があると認められた場合は、教員に指示された課題の提出をもって出席とみなす。また、授業中に課題が完成しない場合は、その時間中に教員に申し出た受講生に限り、個別に締め切りを延長することがある。
- ・欠席、課題未提出、態度不良による減点がいずれもないにもかかわらず、合格点に達しない受講生に追加課題を課す。追加課題が指定された期限までに提出された場合は、それを加味して評価を行う。

【学生への助言】

特になし

【フィードバック方針】

筆記試験は行わない。課題についてのフィードバックは、理解が不足している内容について、次の授業冒頭で解説を行う。

【オフィスアワー】

曜日:月～金、時間帯:11:40 ～ 12:40

【受講のルール、注意事項、その他】

- ・実習室及びコンピュータは、多くの学生が利用するものである。コンピュータは丁寧に扱うとともに、退席時には元の状態に戻すこと。
- ・実習室への飲食物の持ち込み(鞆に入れた場合を除く)、実習室での飲食は禁止されている。
- ・実習室内のコンピュータに対して、USBメモリの使用、USBケーブルを使用した電子機器の充電は禁止されている(特に許可された場合を除く)。
- ・上記3点に関しては、違反した場合は成績に反映される。繰り返し注意しても守られない場合は、実習室への立ち入りを制限することがある。
- ・実習には、自学自修の態度で、課題に積極的に取り組むこと。実習時間中は、教科書や配布資料を読めば分かる内容の質問に対しては、教員は原則として回答しない。
- ・実習は、高等学校の「情報」の基本的な内容を習得していることを前提としている。高等学校での学習内容やコンピュータの基本操作に不安がある者を対象として、4月中の「S」コマを使って、希望者に対して補講を行うことがある。

【教科書】

「よくわかる情報リテラシー(改訂新版)」岡本敏雄 監修(技術評論社)2017年

【参考書】

特になし

【連絡先】

教育研究棟 5階 情報学 教員室・研究室